

いわき地域環境科学会会報



ふいーるど

FIELD No.121

< 目 次 >

【報告】

- ★ 第28回発表会報告 1
- ★ NPO法人いわき環境研究室 3
- ★ いわき自然エネルギー研究会の動き 4

【連載】

- ★ 新川のはじまり 水だより(1) 5

【会員の動きから】

- ★ 会員の活躍状況 5

【リレーエッセイ】

- ★ 国営ひたち海浜公園のネモフィラ 6

【報告】

第28回発表会開催報告

去る1月21日（土）午後1時30分から、いわき市常磐西郷町にあるパルシステム福島「みんなの交流館」パルクitchenスタジオIWAKIにおいて、当会第28回発表会を開催しました。参加者は約40名でした。オープンして間もない新しい施設を利用させていただくことになり、発表会開会の前に会場の見学を行いました。

発表会は、当会山田事務局長の司会で始まり、最初に諸橋会長の挨拶があり、第一部の自由テーマによる発表、休憩をはさんで第二部の設定テーマ「これからのいわきの環境、わたしはこう考える」による発表と続けました。

第一部の自由テーマによる発表は、佐藤事務局次長の座長で行われました。ここでは、福島高専の学生が卒業研究の中で取り組んでいる研究の紹介をしていただきました。今回の発表の一週間後に、高専で卒業研究発表会に臨む学生もおり、とても良い機会であったのではないかと思います。また、緑のカーテンづくりに挑戦して見事に賞を受賞した企業のエコ活動に関する報告も行われ、熱心な企業の取り組みの状況が伝わってくる発表でした。

第二部の設定テーマによる発表は、吉田幹事の座長で行われました。パルシステム福島の安斉さんからはみんなの交流館の概要について、建設の経緯や今後の活用など裏話も含めたお

話をいただきました。また、パルシステム福島環境委員会の武田さんからはペットボトルのリサイクルについて、工場見学会に基づいたお話をいただきました。ペットボトルに関する新しい知識を吸収できた発表でした。当会の諸橋会長からは内郷高野地区について、さまざまな観点から貴重なお話をうかがうことができ、とても参考になりました。

発表会終了後は、発表会場でなごやかに懇親会を開催いたしました。懇親会での利用も含めて、使いやすいキッチンスタジオはとても印象深いものがありました。最後に、当日ご発表いただいた皆様、聴講いただき活発な討議に加わっていただいた皆様に感謝いたします。

記

自由テーマによる発表

- ① 「小型UAVと地上調査を併用した植生のモニタリング」
○伊藤佳祐, 鈴木 颯, 山田貴浩 (福島高専電気工学科)
- ② 「小水力発電装置における出力の安定化に関する研究」
○日下暁仁, ○斎藤大輝, 橋本慎也, 山本敏和 (福島高専電気工学科)
- ③ 「採光システムを導入した太陽光発電装置の製作と発電特性に関する研究」
○作山巧次, 橋本慎也 (福島高専電気工学科)
- ④ 「ゲンジボタルの食餌選択性に関する室内実験」
○近藤史一, 臼井栄佑, 原田正光 (福島高専建設環境工学科)
- ⑤ 「緑のカーテンコンクールに参加して」
○高橋淳文, 木村敏一, 猪狩敏夫, 鈴木偉織
(常磐開発(株)・常光サービス(株)・トーホク装美(株)指定管理業務共同企業体)

設定テーマによる発表

- ⑥ 「パンプゼロエネルギーハウス・木の家「みんなの交流館」の概要」
安斉雄司 (生活協同組合パルシステム福島・専務理事, 維持会員)
- ⑦ 「ペットボトルのリサイクルを考える」
武田憲子 (生活協同組合パルシステム福島・環境委員会, 団体会員)
- ⑧ 「いわき科学の里, 環境ガイド 新川のはじまり, 高野の散歩道」
諸橋健一 (会員, いわき科学の里主宰)



◇◇◇NPO法人いわき環境研究室からの報告◇◇◇

(平成29年1月1日～2月28日)

【1】平成28年度市内河川の水生生物の生息状況等の調査報告書提出しました

いわき市環境まちづくり担い手育成支援事業として「市内河川の水生生物の生息状況等の調査」として採択を受け、原川流域を対象として調査を実施して参りましたが、このほど、調査結果がまとまり報告書をいわき市に提出したところです。本支援事業は、3年目となり、これまで夏井川流域(平成26年度)、鮫川流域(平成27年度)と実施してきました。これで、市内主要3流域について調査したことになります。

今回は、調査報告と同時に、藤原川流域内の小学校(12校)での学習を進める上で参考になればとの想いからリーフレットも作成しました。今後、藤原川での学習時に活用して頂ければと願っております。報告内容は、CDにも収納しましたので、ご希望の方は、下記までご連絡下さい。

連絡先：江尻勝紀(電話：090-3363-7815)

いわき市内河川の水生生物 生息状況等の調査報告書 ～ 藤原川水系編 ～



平成29年1月
NPO法人 いわき環境研究室

川の水がどのくらい汚れているかを調べよう

川の水は流れが速いほどきれいな気がしますが、平沢になるほど雑草やゴミ、土埃、農薬などが流れ入り、きれいな水になっていきます。汚れる程度を調べる方法は、①人間の健康(汚れがあるかを目で見る、水のおいしさ) ②化学分析で汚れがどれくらい入っているかを調べる(COD分析)③川の中に棲んでいる水生生物を調べる。生物の種類が水がどれくらい汚れているかを調べます。

化学分析により水の汚れを調べよう

水の中に入っている汚れの成分(有機物、にがりなど)を測定する装置はCOD分析機、イオン選別装置、水中溶存酸素測定装置、溶解酸素計、濁度計、水中溶存酸素測定装置、溶解酸素計、濁度計、水中溶存酸素測定装置、溶解酸素計、濁度計。

CODの測定方法

① チューブ先端のランプを折ります
② チューブを握って、中の溶液を混ぜます
③ 穴を指した水の中に入れて、半分くらい水を入れます
④ 規定時間経過後、比色皿の上で、色を比べ、濃度を調べます

水生生物を調べる方法

- 場所を選ぶ
水の深さが膝くらいまで、水面が少し波打つ程度の場所があるとよい。川の底に、硬い石や砂が少なくあるとよい。
- 水生生物を捕まえる
川の底に網を投げ、網をひく。(写真A)
網の網の石の裏面や、石と石の間にも水生生物を、石の裏面や網などを手で採るようにして網の中に押し込みます。(写真B)
- 網に入った水生生物をバケツに移す。(写真C)
よく観察して、生き物を網から出し、種類ごとに分けます。(写真D)
- 記録する
採った水生生物の種類と数(または多い、少ないなどの分かったことを記録用紙に書き入れます。)

身近な川について調べよう

～川の水がどれくらいきれいかわかる、水の中にどんな生物がいるか～

川と私たちの関係

流れの中に入って流れる川はきれいな川から、ゴミが落ちてくる川、草が生えている川や、魚が泳いでいる川など、いろいろな川があります。また、川の水は飲み水や田畑に流れているなど、川は私たちにとても大切なものです。しかし、川での事故も頻りに発生しています。注意をしましょう。

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

川は美しいが、危険なこともたくさんあります

水生生物の代表的な種類と水質の関係

(I) きれいな水に棲む水生生物	(II) 少しきれいな水に棲む水生生物
ヘビトンボ、ヒラカゲロウ、カワゲラ	オオシマゼミ、ヒメコヤマト、カワナガシ
(III) きれいな水に棲む水生生物	(IV) 汚れた水に棲む水生生物
ヒメトンボ、ヒメコヤマト、シマゼミ	カワナガシ、アサガハゼミ

藤原川流域の河川環境学習用 リーフレット(表面と裏面)

平成28年度水生生物調査結果

調査結果表

調査地点	調査日	調査者	調査結果
藤原川上流	平成28年1月17日	江尻勝紀	ヘビトンボ、カワゲラ、オオシマゼミ
藤原川中流	平成28年1月17日	江尻勝紀	ヘビトンボ、カワゲラ、オオシマゼミ
藤原川下流	平成28年1月17日	江尻勝紀	ヘビトンボ、カワゲラ、オオシマゼミ

あなたの家の「川住所(かわしゅうじゅ)」はどこですか?
例) 湯本二小、藤原川水系、湯本川上流左岸(河口方向)日産17 (右上の地図に☆印を書きつけてください)

【2】パルシステム生活協同組合連合会の「地域づくり基金」から、次年度の申請事業の助成が決定

これまで、当 NPO が申請主体となり、「地域の再生可能エネルギーを活用した環境教育事業の推進」に関して、同連合会の「地域づくり基金」から、3年連続の支援を頂いてきており、市内3箇所（平諏訪神社、田人支所裏、湯の岳山荘）に自然エネルギー学習用の拠点施設を設置・活用してまいりました。今回、それらの施設の一層の充実と活用の強化を図るべく、「市民連携による多様な自然エネルギーの学習施設の構築と運用」というテーマで助成申請をしておりましたが、このほど、助成をいただけることとなりました（助成額：68万円）。

今後は、「いわき自然エネルギー研究会」を核として、より一層、拠点施設の活発な活用を図っていく所存です。

【報告】 「いわき自然エネルギー研究会」の動き（第13報）

【1】拠点施設の動向について

○湯の岳山荘 ～ 直径 3m の水車に関連して、現在、動力としての活用ができるよう工事が進められています。また、動力水車を軸に活用しやすいよう、太陽光発電・風力発電設備等を、大型水車に隣接する位置に移転する方向で検討が進められています。

【2】拠点施設の管理運営体制の構築

拠点施設の管理・運営に関しては、これまで、「いわき自然エネルギー研究会」が主体となり管理・運営を進めて参りましたが、当研究会は、今後2年程度を目途に解散することとしており、その後の受け皿づくりが課題になっております。

○現在、湯の岳山荘内の施設活用に関しては、「NPO 法人いわきの森に親しむ会」が実質的に管理・運営に当たって頂いており今後も一層の活用が見込まれております。

○他方、他の2施設に関する管理・運営組織づくりが課題でした。

この内、平下平窪諏訪神社の維持管理組織の設立を目指し、去る2月14日（火）、平下平窪公民館にて、地元住民主体の7名の呼びかけ人で、発起人会を開きました。会の名称は「平窪自然塾」とし、独自の事業に取り組むと同時に、平窪公民館の事業に含めていただくこと、近隣の小学校等への働きかけ、維持管理費等の捻出にはサポーターを募集（500円／世帯）し、広報すること等の基本的な枠組みができました。今後、定期的な会合を持つ（隔月一回）ことも申し合わせたところです。（写真は諏訪神社での小学生の自然エネルギー講座の実施状況です。）

○今後、田人地区での受け皿となる組織ができることを期待しているところです。



【連載】 新川のはじまり 水だより (1)

いわき科学の里 主宰 諸橋健一 (会員)

新川上流域の降水量観測を始めました。

新川に限らず、河川の上流域は流域面積の大部分が山林で占められています。そこに降った雨は、河川の流量や水質の決定に大きく関係してきます。また、流域の水収支を考える場合、降水量のデータは必要不可欠なものです。

いまの時代、流域の降水量はインターネットなどで簡単に入手できると思います。しかし、私は旧式の間人なので、その手段を持ち合わせておりません。私のライフワークとして、市内河川流域の環境デザインを考えております。まず、手始めに身近な環境である新川流域から着手してみるつもりです。それにはどうしても新川上流の降水量のデータが必要です。しかし、新川上流域での降水量のデータはなく、実際にこの手で観測したほうが早道と考え、降水量観測を始めた次第です。この観測値は「ふいーど」で公開していきたいと考えております。皆様の活動のお役に立てていただければ幸いです。

※この記事及び観測値の利活用は本会会員に限ります。

降水量観測値	(平成28年)
9月1日～30日	326.5mm
10月1日～31日	60.5mm
11月1日～30日	98.5mm
12月1日～31日	82.0mm
観測場所	内郷高野町先達
観測者	諸橋健一

【会員の動きから】 一当会の会員がそれぞれの分野で活躍しています。

該当会員	時期・場所	主催所管	内容
和田佳代子	H29.1.30	福島県	福島県土地利用審査会への出席 会長の選出、国土利用法の説明、福島県地価調査の報告
諸橋健一	H29.2.2. いわき市役所	いわき市	「いわき市以和貴まちづくり基本条例(案)」について審議
原田正光 和田佳代子 平川英人 佐藤 烈	H29.2.7 いわき市役所 議会棟第2委員会室	いわき市	いわき市環境審議会への出席 市環境基本計画の年次報告と市循環型オフィスづくり行動計画の年次報告について審議

【リレーエッセイ】



国営ひたち海浜公園のネモフィラ

橋本 慎也 (会員)

毎年4月下旬～5月中旬になるとひたち海浜公園のみはらしの丘では約450万本のネモフィラの花が咲き乱れ、近年の各メディアでの紹介もあって多くの人で賑わいます。約3.5haのとても広大な丘一面にネモフィラの花が広がる様は絶景で、来園された多くの人々を魅了しています。かく言う私もそのネモフィラに魅了された一人です。「死ぬまでに行きたい世界の絶景」として写真集で紹介されたこともあるそうで、それには納得です。

テレビやホームページで紹介されている写真は、みはらしの丘の下から上を見上げる写真がほとんどで瑠璃色の床が目の前に連なっていく景色は確かに素晴らしいですが、私のオススメは、みはらしの丘の上から眺める景色です。“海浜”公園というだけあって、丘の上まで上ると太平洋を眺めることができます。天気良ければ海と空の青とネモフィラの瑠璃色が相まって、そこはまさに別世界です。目の前の自然が織り成すグラデーションは感動的ですからあります。日頃の忙しさや喧騒をしばし忘れて、花に囲まれ優雅な時間を過ごすのはいかがでしょうか。ちなみに、ひたち海浜公園のホームページによると、3月下旬からスイセン、チューリップ、ネモフィラが次々と開花していく春のフラワーリレーが始まるそうです。開花時期は、スイセンが3月下旬～4月中旬、チューリップが4月中旬～4月下旬となっています。

余談になりますが、ここ数年、特にゴールデンウィーク期間中の来場者が爆発的に増えたこともあり、マナーの問題が浮上しています。ネモフィラの写真を撮るために花畑に侵入し、花を踏んだり三脚を立てて荒らしたりするケースが後を絶たないのだそうです。一昨年に私が行った際にはなかったですが、昨年からはネモフィラ畑の全面に渡ってロープを張り、一定の立ち入りを制限していると新聞で読みました。素晴らしい景色をこれからも残していくためにもルールとマナーはしっかりと守り、節度ある行動に努めなくてはならないと改めて感じました。

写真は一昨年に撮影したネモフィラ畑の写真です。上手に撮れているわけではありませんが、ご紹介させていただきます。ネモフィラはその花姿から「可憐」という花言葉を持ち、英名では「Baby blue eyes (赤ちゃんの青い瞳)」とも呼ばれるそうです。



2017. 3.1. No.121
発行：いわき地域環境科学会
福島工業高等専門学校
地域環境テクノセンター内
〒970-8034
いわき市平上荒川字長尾30
TEL. 0246 (46) 0837
FAX. 0246 (46) 0843
E-mail : mail@essid.org